

みえじびか

みみより

新聞

NO.30 平成 30 年 8 月

発行：三重耳鼻咽喉科
津市観音寺町 445-15

Tel:059-228-0100 Fax:059-228-0133

ホームページ：<http://www.miejibika.com/>

携帯サイト：<http://www.miejibika.com/i/>

<お知らせ>

当院の診療体制が大きく変わります。



当院名誉院長 莊司邦夫が、9月より火曜日午前のみの診療となります。これに伴い、混雑及び待ち時間の増加が予想されます。できる限り誠心誠意を尽くし対応させていただきますが、何卒御了承頂きますようお願い申し上げます。

加えまして、月、火、水、金の午後の診療受付時間を、15時から18時までとさせていただきます。何卒御了承くださいませ。

<日本小児耳鼻咽喉科学会の報告>

7月12日、13日に横浜で開催された第13回日本小児耳鼻咽喉科学会に参加してきました（坂井田）。この学会は毎年参加しており、全国の小児科と耳鼻科の医師が集まって、色々な報告、協議をします。今回の学会で話題になったお話をお伝えしたいと思います。

舌下免疫療法

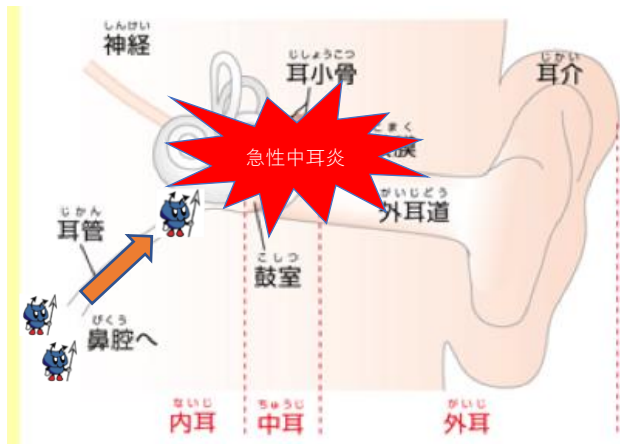


以前も新聞でお伝えしましたが、これまで12歳以上しか保険適応でなかった舌下免疫療法が、最近5歳以上で可能となりました。舌下免疫療法とは、アレルギー（アレルギーの原因となる物質）のエキス製剤を舌下に毎日服用することでアレルギー反応を起こしにくい体質に変えていく治療法です。昔から皮下注射による治療法は実施されていましたが、通院回数が頻回であることや副作用が強いことなどから、あまり好まれて来ませんでした。もっと手軽に体質を変えられる治療として、舌下免疫療法があります。これまで液体の製剤でしたが、口の中で容易に溶ける錠剤の製剤が出来、スギ花粉症の人とダニアレルギーの人は治療を受けることが可能です。1ヶ月に1回の通院が必要ですが、自宅でアレルギー投与出来るのが魅力です。毎日服用が必要であること、服用後2時間は運動、飲酒、入浴が出来ないこと、まれに重篤な副作用が起こることがある（蕁麻疹、喘息発作、アナフィラキシーなど）など、色々な注意は必要ですが、概ね安全に行える治療法です。スギの場合、3、4年の継続で年々症状は改善してくるそうです。一旦やめると数年でまた症状が出るがありますが、その時はまた1、2年追加するとまた症状がなくなるようです。毎年ひどい花粉症に悩まれる方や、妊娠希望でお薬を飲みたくない方、受験前に花粉症症状を抑えておきたい方などにはお勧めです。ご興味がある方は、是非ご相談ください。



急性中耳炎の治療法

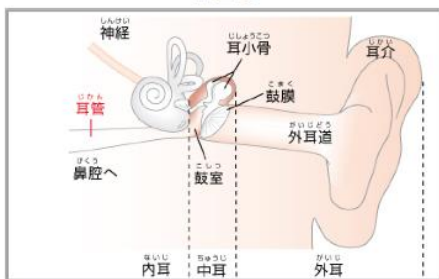
急性中耳炎は、主に2歳以下の小児に起こりやすい病気です。発熱、機嫌の悪さ、耳を触って泣く等の症状が出ます。耳と鼻は「耳管」という管でつながっていますが、この耳管を通じて鼻水が耳へ逆流すると、鼻水に含まれていた細菌が増殖し、急性中耳炎を発症します。小児は耳管が太くて短く（下図）、鼻汁が容易に逆流します。加えて、小児は風邪を引きやすく、また鼻汁がうまくかめない



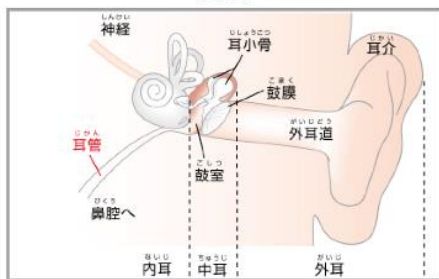
ので、鼻の中に鼻汁が充満すると耳の方へ逆流しやすいのです。

急性中耳炎には、軽症、中等症、重症という分類があります。簡単に言えば、軽症は鼓膜に少し赤みが見られる程度、

子ども



大人



中等症は鼓膜の奥に膿が溜まり、赤みや鼓膜の腫れが明らかな程度、重症は鼓膜の奥の膿がかなり溜まって鼓膜が強く腫れた状態です。腫れに耐えかねて、鼓膜が破れて膿が出てきている（耳だれ）

人もいます。厳密には、これらの鼓膜の状態に加え、発熱や機嫌の悪さなどが点数化・分類され、それぞれの状態にあった治療法が推奨されています。「小児急性中耳炎診療ガイドライン」という治療指針にこうした分類やお勧めの治療法が掲載されていて、今年第4版が出版されました。学会では、ガイドライン作成委員の先生方も講演、討論され、適切な治療法について学べます。

ガイドラインによると、軽症の人には痛み止めだけでOKです。数日後悪化した場合は、抗生剤の投与が必要です。中等症、重症の人には始めから抗生剤が必要ですが、特に重症の中耳炎の人には「鼓膜切開」といって、鼓膜を切って膿を出す処置が推奨されています。「鼓膜切開」は、抗生剤が十分発達していなかった時代には非常によく用いられた治療法でした。最近では、点滴に匹敵するくらいの強さを誇る抗生剤が登場し、効果的な治療が可能となってきましたが、やはり重症な場合は中耳の膿を出してあげることで、速やかに症状の改善が期待できます。鼓膜に痛み止めをし、5分ほど待って切開をします。膿が抜けると、熱や痛みがすぐに改善します。後遺症はほとんどなく、切開した鼓膜の穴もすぐに閉じます。当院でも、必要と判断した場合は行っている治療法ですが、今回の学会で、改めてその重要性が強調されていました。抗菌薬に抵抗を持つ菌も増えてきた昨今、見直されるべき治療法なのかもしれません。

.....
 中耳炎のきっかけは、やはり「鼻水」、鼻のケアが最も重要です！2歳くらいまでは、おうちの方がハナ吸引器で吸引をこまめに行ってください。3歳以上のはなかみの出来るお子さんには、はなかみを促しましょう。そして、鼻水が続く時は、早めに受診をお願いいたします！